

鳥

Aブロック 全作品と講評

www.columnland.net/

にて作者さん&読者さんの声実況中



もしも三歩歩いただけで

すべてを忘れられるなら

どんなに幸せなことだろうか

鳥と島

常識を問われることは日常茶飯事であるが、時に返答に窮することもある。場合によっては、それが今の日本の首相の名前だったり、二次方程式の解の公式だったりする。いずれにしても、常識として扱われているにも関わらずに忘れられがちなものに共通しているのは、それが日常生活に直接関係していないという点だ。しかしながら、そういった知識の欠落は日常生活のいたるところで潜伏し続け、ひとたび露呈すれば「常識のない人」というレッテルを貼られ、挙句の果てには人間性を疑われることもある。

そこで、読者に質問しよう。皆さんは、「島根」がどこにあるかご存知だろうか。

本題に入る前に、今「島根」を「とり」と呼んでしまった読者がいれば正直に申し出てほしい。諸君に名誉挽回のチャンスを与えよう。「ととり」を正しく漢字で書けるか。「取鳥」？「鳥取」？正解は「鳥取」である。

冗談はさておき、先ほどの問いは実際に私が遭遇した事例で、正確には「鳥取と島根のどちらが東にあるか」というものだった。あえて答えは言わないが、このとき居合わせていた六人の友人のうち正しく答えられたのはちょうど半数の二人であった。もともと、その六人のうち三人が東、残りの三人が西と答えただけであって、確信を持って答えたものはいなかった。

この話を聞いたら、鳥取及び、島根県民の方々は思うだろうか。「い

つものことだから気にしないよ」と言うてくれるような寛容さを持ち合わせていない限り怒るだろう。なにしろ、そこが自分の生活の中心なのだから、当然、自分の県がどこに位置しているか知っているのは当たり前であり、すなわち「常識」である。

そこで「常識」とは何かと考えさせられる。と言うのも、先ほどの場合、運よくも六人のうちに鳥取県民はいなかったもので、正しく答えられなかった者を「非常識人」と糾弾する者はいなかったばかりか、正答が分からない状態でもその後の日常生活を送るのに何の不便もなかった。このような場合、果たして「鳥取の位置」とは「常識」なのだろうか。

「教養」という言葉がある。「常識」が日常生活を送る上で自然に形成されていくのに対し、「教養」は幅広い知識を能動的に習得することが必要とされる。鳥取の位置が「常識」であるかどうかの線引きは曖昧だが、それを知らないことによつて少なくとも自分は「教養」がないということがはつきりするのではないだろうか。

特殊な状態と言うものは、いつの世にも存在するが、もし自分に教養があれば、日常生活にふと出現したそうした非日常的出来事に柔軟に対応できる。そうすれば、鳥取と島根を間違えることでそこに住む方々を怒らせるようなことは絶対にないだろう。鳥取の一件は「教養」について考えさせられた良い機会だった。

翼ってそんなに必要かね？

翼をくださいの歌詞の中で「今私の願い事が叶うならば翼が欲しい♪」という部分がありますが、その次の歌詞に「この背中に鳥のように白い翼つけてください♪」と続くように、この歌は、人間の形を保ったまま背中に翼がほしいと言っていることになります。しかしこれではとても大変なことになります。翼はかなりスペースを取るので、満員電車ではとても迷惑がられるでしょうし、服も背中に穴のあいた特注品を着なくてはなりません。また、リュックサックも背負えませんし、部活のチームで用意したユニフォームも着ることができません。さらには、羽毛アレルギーの人には近づく事さえできません。他にも、翼を身につけることによって生まれるデメリットは多く予想されます。つまり、鳥のように飛びたいという目先の欲に心を奪われ、その願いが叶ってしまった日には翼を欲したことを後悔する羽目になるのです。

そんな訳で今私の願い事が叶うならばマイホームが欲しいです。

少年と街角の夢

涼平は、足を止めた。

ざわざわと吹く風とおびただしい数の鳥が寢床を奪い合うけたたましい声が目の前の大きな木を包んでいた。少し肌寒い空気に人々が帰宅を急ぐなかで、その木はどこか浮世離れして感じられた。

周りの人間がこちらを見ていないのを確認して、涼平はするとその木の裏にまわりこんだ。木の裏側は昼間でも陰になっているため地面が湿っていて、座るとまるで自分も地面から何かを吸収しているのではないかと錯覚させられる。

「久しぶりだね。」

涼平は大きく息をついて、木を見上げると返事をした。

「最近……なんか忙しかったんだ。毎日何かしら予定が入って。宿題とかもあったし。」

先ほどまで固くしていた表情を緩め、涼平は静かに笑った。

「今日も急にカラオケに誘われたんだけどさ、でもこつちを先に約束してたし断ってきたんだ。やっぱり君に話を聞いてほしくて。」

一瞬ふきぬけた風が涼平の髪を揺

らした。涼平は少し切なげににこりとした。

「ありがとう、でも僕が寂しかったただけだから。いつも話きいてくれてありがとう。こんな話できるの君だけだよ。あのさ、僕……僕さあ、やっぱり春ちゃんのことが好きなのかもしれない。」

そうはき出すとはあ、と息をついて涼平は頭をかかえた。

「何でなのかなあ……。」

その頭をなでるようにふわりと空気がまきあがった。相変わらず鳥がけたたましく鳴くのに気づいていないかのように、道を歩く人々は足早に歩いていった。

「そっか……そんなものかなあ……。僕よくわかんないよ……。」

頭をぐしゃぐしゃして、しょんぼりしていた涼平は、ふと顔をあげて、木を見上げた。

「ねえ、ずっと一緒にいてね。いくつになっても会おうね。もし春ちゃんとうまくいってもそうじゃなくても、お前は大事な友達だからさ。」

風がおおきく吹いた。鳥がばさばさと何羽も飛びあがった。涼平はとびきりの笑顔をみせた。

「ありがとう、僕も大好きだよ。」

カゴの中の鳥

今だ。今こそとびたつときだ。

―ペットショップの籠の中で生まれた僕にとつて外の世界は近くて遠い、夢の世界であった。籠越しに見るあの青い空の下で自由に羽ばたきたいと何度思っただろう。僕にとつて外の世界は一生羨むだけのものだ。

と、そんな風に思っていた時、転機が訪れた。

僕を飼うという親子が現れたのだ。子供の方が僕の青い羽毛を気に入ったようで、親に向かって僕を飼いたいとねだりだした。親の方はあまり僕に関心が無さそうだったが、息子に押し切られて店員に僕を買うから籠と一緒に売ってくれと言った

最初、僕は初めての外の世界に心を躍らせていた。しかし現実にはペットショップ以上の厳しい世界であった。あんなにねだっていたにも関わらず子供は僕に対する関心をたったの十日で失ったようだ。親にいたつては初めから無い関心がますます無くなったようで、今や餌もまともにつくれない。もううんざりだった。いつか逃げだしてやる。そう心に決めた―

そして今こそ、その時だ。何の気まぐれか、子供が籠の掃除をするように僕を籠から出したので、僕は隙をついて顔の前で羽ばたいて

やって戸惑っている間に開いていた窓から外に出た。籠から出すのに窓を開けていたなんてまるで逃げてても構わない、と言わんばかりだな、と思ったがまあ別にいい。ついに自由になれたのだから

これが憧れていた外の世界。籠のとは比べるべくもなかった。広い空間をどこにでも好きに行ける、無限の自由がそこにあった。眼下には人間達が見える。僕をじつと見ている猫もいる。バカ猫よ、お前は一生僕の所には来れまい。僕は自由を得たのだ。

興奮して飛び回っていたらかなり疲労してしまった。木にとまって休もう。

ふと、空を見たらもうかなり暗くなっているハツとした。僕は夜目が利かない。暗くなってしまうたらほとんど何も見えない。

考えてみれば餌もどうやって手に入れたらいいのだろうか？ わからない。僕は外の世界について何も知らなかった。ただ憧れていただけだった。全身に恐怖が走った。その所為だろう、背後に迫るものに気づくのが遅れた。さつき空から馬鹿にしたアイツは僕よりずっと夜目が利くのだ―

籠の中で外の世界に憧れていた僕は籠を破って自由を得た代わりに加護を失っていた。気付くのが、遅すぎた。

鳥類図鑑

サギ

学名:Sagi dameyo / 分類: 霊長目ヒト科
同類の個体が多く生息する地域に発生しやすい。釣りが得意で、同類を獲物としてそれらの所持物を奪う。「オレオレ」と鳴く。

ヒバリ

学名: Misora hibari / 分類: 霊長目ヒト科
希少な種で、正式には日本で一匹のみしか確認されていない上に、現在では生存個体が確認されていない。非常に美しい鳴き声を持ち、歌を歌うかのように鳴くため多くの人に好まれた。起きている間ははっきりなしに鳴き続ける習性があったためか、寿命は他の種に比べ短く、その歌声が止むときが絶命のときだったという。

チリトリ

学名: Ho-kiga friend / 分類: 掃除目ゴミステヨウ科
積極的な移動手段を持たないが、固い外骨格を持つ。塵や埃を主食とする。一般には平べったい個体が多いが、開閉する口を持った立体的なものも発見されている。

しりとり

学名: Take hips / 分類: 林檎五目栗理科
二羽以上で行動することが多く、多彩な鳴き声で常にコミュニケーションを取り合う習性がある。研究の結果、その鳴き声は極めて日本語の発音に近いことが分かっており、擬音は死ぬ時にしか発せられないことも確認されている。日本固有の種と思われるが、他国にも亜種がいくらか発見されている。

あやとり

学名: Tobi nobita / 分類: ホソナガイ目ヒモ科
擬態を得意とする。亀やとんぼなどの他の生物に化けることもあるが、富士山や川といった自然、橋やほうき、東京タワーなどといった人工物に化けることもあり、そのバリエーションは豊富である。ただし擬態の得手不得手は個体によって異なるらしく、自身の体がこんがらがって身動きが取れなくなる例もある。

* * *

このように鳥についての楽しい文章が掲載された、経済的なオールモノクロ・テキストによる前代未聞の鳥類図鑑！右記の例の他にも、うつとり、せきとり、あわおどり、ハーバード、サンダーバード、ケミストリー、よりどりみどりなど約 3000 種を収録。価格は 3000 円ぽっきり（税込）これであなたもトリマスター！

※ 取り寄せの際の問い合わせは 333 - 3333 まで。
トリトリトリ トリトリトリトリ

親子の共演

暗い……

狭い……

でも今日でこの個室とおさらばできる！

気がつけば僕はここにいた

そして今日旅立てる

きつと僕にとってそれが運命

その運命に何の不満もない

だって……

僕を呼んでいるんだ！

僕を必要にしているんだ！

「お母さん」が僕を呼んでる

「お母さん」が僕を待ってる

今行くよ！お母さん！

そして僕はお母さんと一緒になった

いったただきまあゝす

祖父の日記

二〇三〇年〇月△日

新月の夜。俺たちは暗闇に紛れて、空を飛んでいた。仲間は六羽。一番強いリーダーが先頭で、下っ端の俺は端っこだ。敵にばれてはいけけないので、無線は禁止されていた。ただ目的地に向けて操縦桿を握っていた。

空から見下ろす夜景は綺麗だった。あの綺麗な光の中に、俺たちと同じ人間が、たくさん暮らしていたはずだ。国が違うだけなのに、なぜ俺たちは戦闘機に爆弾を積んで飛んでいるのか理解できなかった。目的地が目前に迫ったとき、リーダーから無線が入った。

「全機に告ぐ。目的地に着き次第散開、作戦を実行する。無線は解禁だ。いくらステルスでも、いずれ存在がばれるからな。敵機がスクランブルで空に上がってくる前に帰還するぞ。おいヒヨ子。準備は出来てるな？」

はい、と返事をしたものの、爆弾の投下をためらってしまい、戦闘空域に残されてしまった。真つ暗闇のなかで、いくら旋回してもミサイルアラートが鳴り止まない。旋回するたびに胃袋が押し付けられて、頭がおかしくなりそうだった。

こんなにも空が狭いなんて

死を覚悟した。いつそ死んだ方がいいと思った。でもリーダーはそれを許さなかった。

「逃げるのか？死んだら逃げられると思ってるのか？守るべきものを投げ出すなんて、俺は許さない。」

リーダーは戦闘空域に一人で舞い戻り、驚異的な機動で俺の後方の敵機を撃墜した。基地に帰還した後、リーダーに聞いてみた。

「隊長にとって、守るべきものは何ですか？」

「・・・分からないさ。でも多分、俺たちは未来を守っていると思う。」

私は日記をボタンと閉じた。祖父は連合軍のツバメと呼ばれるエースパイロットだったそうだ。守るべきもの・・・今の時代に、見つけられるだろうか。

第三次世界大戦が終わって五〇年。私は平和に満ちた空を見る。ツバメがその空を舞うのを見るたびに、祖父は確かに未来を守ったと思った。

愛敬　　深い思い遣り

自由に空を翔る鳥の居るこの青天を、僕達はあと幾度見られるだろうか。

「たかしおにいちちゃん、おなかへったよお。」

隣に座っている志穂が呟く。僕と志穂は一昨日、川でどうにか捕まえた魚一匹を二人で分けてから何も食べていないのだ、当然だろう。

それというのも、僕達の村が一週間前に国同士の戦の戦場となり、村の人や家、食糧を焼かれ、奪われ、壊されたからだ。父さんは徴兵で居なくて、母さんが皆を連れて逃げたけど、矢が沢山飛んで来た時に志穂と舞を庇って死んだ。その後、僕が皆を連れて逃げた。だけど光弘も陽も舞も死んだ。僕も左腕と左足に矢を受けたけど、志穂だけはどうにか無傷で守り抜いた。やっと安全だと思える場所に就いて座り込んだ時、僕も志穂も血に塗れていた。

家族を突然失った事は辛い。でも志穂と僕は生き残ったのだ、僕は今日まで志穂を守りつつ懸命に生きてきた。だけでもう力が出ない。志穂には生きてほしかったけど、答える気力も無い。ただ空を眺めていた。

すると鳥が散歩でもしているようにゆっくりと、僕達の方へと飛んで来た。その鳥は僕達の頭上へ来ると旋回し始め、ずっと僕達の頭上に居続けた。まるで嘲笑っているかのようなその姿に家族を殺された光景が重なり、怒りを覚え、僅かだが力が湧いて来た。僕は横にあった石を拾い、持てる力全てを込めて投げた。

渾身の力を込めたその石は当然、狙いである鳥に当たる筈など無いと思っていた。左の手足に矢傷を負い、疲労困憊、そして家族を奪われた激情に任せ投げたのだ、もはや只の憂さ晴らしと謂えた。

しかしその石は鳥に当たり、鳥は地面に叩きつけられた。僕は意外な出来事に暫く呆けてしまったが、志穂の声に我に返り、鳥を拾いに行った。

(鳥の視点)

小さな女の子と青年が居る。二人とも、特に青年の方は大分弱っているみたい。

昨日飛んでいた所で戦が行われていたから、避難して来たのかな。だけどこの近くには食料が取れそうな場所が無いよ。このままじゃ二人とも死んじゃう。少し周りを見てこよ。

ダメだ。六キロくらい行かないと果実も魚も手に入れない。あの状態じゃとてもそんなに動けないよ。……仕方ない。もうぼくにはこれしか無いね。

覚悟を決め、二人の元まで最後の飛行を噛み締めて進む。戻るとすぐに青年を元気づけ、挑発する舞を踊った。効果は間もなく現れ、石が飛んで来た。逸れた石まで当たりに行くのは色々辛いな。

衝撃を受け、落ちてゆくなか思う。どうかこれから生きて――。

夢

—夢をみた。

鳥のように空を舞い、木から木へと飛び移り、しかしその背中には翼はない、そんな夢を。

飛んでいることに疑問はなく、ただ、落ちてしまうのではないかという不安と、自由に飛び回る興奮とが混ざり合い、奇妙な高揚感が夢を満たす。

まだ幼い僕は、今晩もまたあの夢が見れたら…と願いながら、眠りに落ちていく…。

* * *

いつからだろうか、あの夢をみなくなったのは…。

なぜだろうか、あの夢をみなくなったのは…。

人が空を飛べないのを知ってしまったから？

少年の純粹な心を失ってしまったから？

もう僕が空を飛ぶ日はやってこないのだろうか…。

* * *

—そして僕には…、夢がある。

もう、あのときのように空を飛ぶことはできないのかもしれない。い。

でも、心からかなえたいと願う夢を手に入れた。

未来という大空へ向かって、希望と可能性という両翼を背に、今、僕は…。

終わる世界に

現在、地球の自然は人類の手によって破壊され、その環境は破壊した張本人である人類さえも生存が難しい程に過酷なものになっていた。

そのため、過去には急激な増加を見せていた人類も、地球上から段々と、しかしそのペースを徐々に上げながら減少していた。

同時に、人口の著しく低下したあらゆる都市は、その残された少数の人々が他地域に移住した後に、悉く爆破されていた。これは、自然の回復を幾らかでも促したいという、人類の勝手な願いから行われていることだ。

そんな中、各地ではスペースシャトルの開発そして発射準備が着々と、休むことなく進められ、これまでに無数のシャトルが地球を飛び立っていた。

そしてついに、地球上最後のシャトルが発射を迎えようとしていた――。

このシャトルには、地球上最後の人類約一〇〇〇人が収められている。彼らは皆カプセルに入れられ仮死状態にあり、このまま新天地へと運ばれていくことになる。

シャトルの中で現在覚醒状態にある人間は二人。正操縦士と副操縦士。

彼ら二人は発射のための最終点検を終え、これから発射前の最後の儀式を行おうとしていた。

「いよいよですね」軽く深呼吸をした後、副操縦士が口を開いた。

ああ、と緊張した面持ちで正操縦士が応える。「俺たちが最後だ。もうこの星に人間はいない」

正操縦士が赤いボタンに手を伸ばした。確認するように副操縦士に視線を送り、彼が頷くのを確認すると、勢いよくそのボタンを押した。

ゴゴゴゴゴゴ、と豪快な音を響かせながらシャトルは青空へと昇っていく。

そしてシャトルが大気圏を突破するとき、このシャトルの発射台のあった辺りで、あらかじめ設置しておいた爆薬が起爆した。これで地球上の人工建造物のほぼ全てが破壊されたことになる。

「僕たちの住んでいた町も、都市も、今ではみんな瓦礫の山、か」シャトルが安定すると副操縦士が呟いた。

これを聞いて正操縦士が言う。「今はただの瓦礫かもしれないが、すぐに草木が生えて林や森になるさ。それが地球の本来あるべき姿なんだ。立つ鳥跡を濁さず。人間の造った遺物は全部破壊しねえとな。そしたら、後は野となれ山となれ、ってな」

副操縦士は正操縦士の言葉を聞きながら、それでも故郷のことが頭から離れなかった。

一枚折るたび、祈りを込める

あの人がよくなりますように

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	とりあたま	2 pt	6 位	5 sp
		なあるほどもな思いつき。 凹んだときに、自分を応援するメッセージになりそう な。 トサカ・コスプレでもしてみましようか。 剽軽さがいい味わいの今週の表紙は、なんと注目度バ ツグンにて、最多特別賞に輝きました。おめでとう！ 特別賞：すべてを忘れま賞（短いのにかなり深い） はっぴー賞（共感できたから） 覚えていたいこともあ るで賞（前向きに生きよ？） にわとり賞（にわとりだ から。） 友達に相談しま賞（そんなに忘れたいような ことがあるなら友達に相談しようぜ！」 イチオシフレーズ：「もしも三歩歩いただけですべて を忘れられるならどんなに幸せなことだろうか」（全 文じゃん！）		
A02	鳥と島	2 pt	6 位	0 sp
		飄々とした語り口が、いい個性でした。正統派として 自説を熱くブツのではなくて、ちょっとゆるめのトー ク。でも、しっかり「教養」と「常識」というキー ワードを柱に構築してあります。 さいごのまとめが、もっとびしりと決まると良かった のですけれど。		
A03	翼ってそんなに 必要かね？	5 pt	5 位	3 sp
		翼とマイホーム、そんな究極の二択でご呈示いただき ました。 夢と現実、たぶんまだまだ夢見がちな読者層に、ユー モラスに冷や水という狙いが良かったです。 特別賞：久米田で賞（いちゃもんつけたー） 夢がない で賞（そのまんま） 共感できたで賞（言ってることが もっともだから） イチオシフレーズ：「マイホームが欲しいです。」× 2		
A04	少年と街角の夢	0 pt	11 位	1 sp
		木との会話。恋する少年。定番ながらロマンティック な展開でしっとり浸れます。 木がメインなのに「街角」ってどうよ、とか、少年の セリフが状況を説明しすぎて不自然とか、不満はあり ますが。 で、春ちゃんの正体は？ 木？？ 特別賞：心温まる（ハートフル）で賞（とてもハート フルな作品） イチオシフレーズ：「春ちゃんとうまくいっても」		
		7 pt	4 位	0 sp
		加護オチですか、なるほどね。憎い猫め！ ていねいに、しっかりストーリーを組み立ててであると		

A05	カゴの中の鳥	ころが好印象。 インコかな。鳥の種類や子供の名前といったディテールを埋めてゆくと、さらにストーリーが映えますよ。 イチオシフレーズ：「加護を失っていた」
A06	鳥類図鑑	37 pt1 位0 sp いろんなヴァリエーションで並べたアイディアも楽しいし、あやとりの学名が「Nobi nobita」なんて、こまかなつくりもブラボー。 さらにPR仕立てにして、盛り込みきれなかったコンテンツをチラ見せしたのもナイスアイディアでした。 「うっとり」を読みたい！ いやもう天井知らずの人気で37ポイント！9つの班が首位に選び、5つの班が2位に選んだ結果です。 イチオシフレーズ大賞ともども、グレートなゴールド・メダル、おめでとうっ!!! イチオシフレーズ：「寿命は他の種に比べて短く」「オレオレと鳴く」「撥音は死ぬときにしか発せられない」「これであなたもトリマスター！」「ケミストリー」「学名：Nobi nobita」
A07	親子の共演	1 pt9 位1 sp 親子丼。そんなそんなブラックな。お母さん、泣いちゃいそうです。 明るいブラック、ノリの良さが身上でしたね。 特別賞：いただきま賞（親子丼たべたくなった。） イチオシフレーズ：「いっただきまぁ〜す」
A08	祖父の日記	10 pt3 位0 sp 新米ヒヨッコ→連合軍のツバメ→孫世代の本物ツバメ。 鳥シンボルをじょうずに連鎖させつつ、3世代のストーリーをコンパクトにおさめていただきました。 「こんなにも空が狭いなんて」のフレーズも、すんと効いてのブロンズ・メダルでした、おめでとう！ イチオシフレーズ：「こんなにも空が狭いなんて」
A09	愛敬～深い思い遣り～	2 pt6 位2 sp 身を捨てて虎に我が身を食べさせる。お釈迦様でしたっけ。 助けられた本人は、そんなことはつゆ知らず。むしろ憎しみ全開で石を投げてる。 その落差がお説教っぽくなく描かれているところが個性として光っていました。 もうちょいコンパクトになる……ハズ。 特別賞：ファンタジー賞（現実的ではないけど面白い） 仏陀で賞（ミラクルバードだから）
A10	夢	0 pt11 位1 sp 空飛ぶ夢よ、もう一度。 前半は誰にでも経験ありそうな共感モード、ラストは未来志向。爽やか仕上げでまとめて好感度大でした。 特別賞：亜空間賞（亜空間の有効利用）
		1 pt9 位1 sp 立つ鳥跡を濁さずの宇宙版。 お引っ越し前の人類の、とっても折り目正しい「現状復帰」。

A11	終わる世界に	「後は野となれ山となれ」が、こんな意味に変換されるなんて♪ 軽妙なセリフに支えられて、壮大なスペースオペラの序幕のような、わくわく感でした。 特別賞：アフタヌーン賞（黄昏って感じかな？） イチオシフレーズ：「それでも故郷のことが頭から離れなかった」
A12	無題（折り鶴）	23 pt2 位0 sp 祈るしか、今の自分にできることはない。 神さま、どうか—— そんなせつない思いが、余白から、くっきり際立ってきます。 白く輝くシルバー・メダルが、とても良くお似合いの裏表紙でした。 イチオシフレーズ：「あの人がよくなりますように」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	美しいもの、見つけた	13 pt	3 位	0 sp また新しい境地へ、ということだったでしょうか、パン屋さん。 野鳥を通してしか世界を知り得ない、かごの鳥。そんな寓意なのかなと読みました。 きれいだけれど、何か透明すぎて。「優しさ」や「美しさ」といった抽象的な概念が、もう少し具体的でユニークな言葉に置き換わってゆくと、よりしっとり心にしみる叙情詩となるのでは。 もはやライバルは過去の自分？ 今回もまた強さ発揮でブロンズ・メダルです、おめでとう！
B02	温もり	6 pt	6 位	0 sp 翼なんかなくなたって、今のこのちいさな手のひらの温もりが何よりの宝物。 父と子と、手をつないでの帰り道はきっと夕焼け空ですね。 王道ながら、親子愛、照れずに（←ここ重要）描ききっていただきました。
B03	天使病	5 pt	7 位	2 sp そそられるネーミング。 なにその中2病？ みたいな設定はおもしろいのに、ラフィルの悲しみが、あんまり伝わってきません。むりやり教祖に祭り上げられたり、好きな人にすなおになれなかったり、苦しみがもっともっとあるはずなのに。 特別賞：長いDe賞（長い） 中二で賞（中二臭がするから）
B04	羽毛の生えた感情	0 pt	10 位	2 sp いいなあ、これ。わけわからんけれど、そこが。だってどうせ恋なんて、わけわからんものだもの。 とんでも勘違い君と、天然緑の羽根子ちゃん、さあてこの行く末は？ 特別賞：意味深で賞（結局どういう内容？） ウブで賞（恋でこんなに語っているから） イチオシフレーズ：「恋ってたぶんこういうことだと思う」
		13 pt	3 位	1 sp

B05	「おい、鳥取！」	部活の一光景。何でもない日常のできごとをここまで冷静沈着に描ききったのがグッジョブ。その「引き」視線のおかげで、その場のビミョーな空気がしっかり伝わってきます。 地味にうまいなあ。やっぱり実体験は強い。しっかり言葉が伝わってきます。おめでとうブロンズ・メダル&イチオシフリーズ大賞!! 特別賞：健忘賞（人の名前、間違っているから） イチオシフリーズ：「ユンゲラーみたいに挙動不審です。」×4「おお、赤澤か。」×2「ミスタービーン似のおめめパッチリ君」
B06	わずらい	3 pt 9 位 0 sp 縛られるのが、うれしいの☆ だんだんと真相が見えてくる運びに、なるほど恋わずらいかと納得。 「あなた」の魅力が少しだけでも描かれていると、より感情移入できそうですが。
B07	庭には二羽にわとりがいた.	8 pt 5 位 1 sp グエエエ。かわいらしさと安心させといて、いきなりそんな。 それにしても、なぜに二羽ずつ、二人ずつセットでいなくなるのでしょうか、「庭」だから?? 特別賞：怖いで賞（怖い） イチオシフリーズ：「どうしようころされるたすけてころされ」「2009年6月12日」
B08	鳥	0 pt 10 位 0 sp さいごの「いやなれる」で、ぐっと気持ちが上向きになるところがグッド。 でもなぜカラスだと凹んで、トビだと上がるのか、そこまで考察が届くと良かった。 イチオシフリーズ：「ああ鳥になりたい」
B09	田村のペンギン	23 pt 1 位 2 sp 「実は飛べるんだ」 がんばれ田村君。これから始まる冒険ストーリーといった趣ですね。とぼけたやりとりにハマりました。圧勝のゴールド・メダルでしたね、おめでとう!! 特別賞：田村賞（名前がべただ）空を飛びま賞（結局飛ばないんかいっ!!） イチオシフリーズ：「母さん、おれペンギンだよ」「ペンギンなど認めないぞ.考え直せ」
B10	人×鳥	0 pt 10 位 0 sp 自分にはないものだから欲しくなる.その真理をラスト1行にぴしりと打ち込んでインパクト大です。 ただ、形式はもっと整えたほうが良さそうです。それだけで印象がまるで違って来るハズ。
B11	古の法の下に	5 pt 7 位 6 sp うう、詰め込みすぎですってば。ノって書いてるのは分かるけど。 空戦描写の後半が盛り上がるので、前半をスリム化してそこだけしっかりクローズアップしたい。でも、この長々しさが最多特別賞を呼び込みましたね、おめでとう！ 特別賞：金属賞（イリジウム）5類賞（5類からの支持）ガンバッタで賞（長く凝った文章を書いたこと。僕らが長い文章を読んだこと）肩コリ賞（文章は凝っているけど、読みにくくて肩もこる。）誕生日で賞（委員長が11

		日生まれだから) ガンバッタで賞 (長いから)
		14 pt2 位1 sp
B12	象徴	たしかにハトって我が物顔すぎかもね。 こちらの「嫌い」という気持ちを読み取ってのカウン ター攻撃だったの、かも。 でもほら、先に手を出したものの負けだから!? 日常の一コマ、いかにもありそうな、と共感を誘いつ つ、社会派テイストもほんのり。そんなところが評価さ れてのシルバー・メダルでした、おめでとう!! 特別賞：身近で賞 イチオシフレーズ：「べちゃり」「奴らはなんの象徴な んだろう？」